

同窓の絆を大切に

同窓会10代会長 長崎 一男

妙高はるかに仰ぐとき～～に始まる校歌ですが、文字通り越後の名峰妙高山を仰ぎ見る頸城平野の南西部に、我が母校は1911年に中頸城郡立新井農学校として開校しました。その後1948年の学制改革により新潟県立新井高等学校と改称され、約50年近く、農業・被服・工業化学・普通・商業と5つの科を有する総合高校として歩んでまいりました。そして、時代の変遷とともに県の方針により1981年に農業科、1955年に被服科、1998年に普通・工業化学・商業の各科が閉科となり、新たに1996年から総合学科が新設され今日に至っております。

これまでの同窓生は27,000人余りで、妙高市や上越市の地元はもとより県内外で活躍されております。やはり同窓の絆は強く同級会や同期会はもちろんのこと、地域や職場でも縦のつながりや横のつながりが生まれ、親近感とともに連帯の気持ちがいつまでも続いていることは喜ばしいことであります。また、いつまでも母校の状況を気かけながら、在校生の活躍を楽しみにしている方々もたくさんおられます

このような状況から同窓会の目的や役割を考えてみますと、まずは同窓生間の旧交を温め親睦を図ること、次に母校や在校生への支援や後援を図ることがあげられます。我が同窓会は1916年に創設され、これまで周年事業はじめ母校の発展にかかわる取り組みを歴代会長と役員の皆様が多くの会員の協力をいただきながら成果を上げて推進されてきました。現役員一同、この伝統を受け継ぎ、時代にあった同窓会の在り方を模索しながら同窓会活動を進めてまいりたいと思っております。

そこで、昨年度より学校職員に任せきりであった同窓会事務局に同窓生が加わり、今年度は支部組織の再構築やホームページの充実にも取り組み始めました。また、地域社会では同窓会員が多方面で活躍されており、同窓会として参画できる活動機会があればどんどん参加して、同窓生の親睦向上と交流の輪を広げていきたいものです。

さらに、在校生が生徒会活動や部活動で大きな成果を残してくれておりますし、高校生の活力とアイデアを地域社会に生かし様々な貢献活動を実践してくれております。それらの活動にも一層の支援ができればと考えています。

結びに、会員の皆様には同窓の絆をいつまでも大切にいただき、今後もご健勝でご活躍されることを心よりご祈念申し上げ、挨拶といたします。

母校後援について

- ・クラブ活動費の補助
- ・全国大会などへの出場援助
- ・懸垂幕掲揚
- ・クラブ活動への援助
- ・高大連携活動への協力
- ・六華祭への協力 など